

たわわ	発行 2006年6月30日
TAWAWA	68号
地域で生きる障害者を支える会通信	NPO法人「地域で生きる障害者を支える会」
	住所：横浜市港北区下田町6-31-8
	活動ホーム「しもだ」内
	TEL 045-562-3600
	FAX 045-562-5991

N.P.O.法人「支える会」としての初仕事

写真展・「地域で生きる重度障害者」 終る



6月はいつも静かに過ぎていく季節でしたが、今年は大忙しとなりました。かねてから、取組んできた特定非営利活動法人(N.P.O.)の認証が神奈川県知事より出され、無事6月9日法人の登記も済みしました。これにより、この「支える会」の活動は、内容はこれまでと変わりませんが、今後N.P.O.の活動として、より責任のある、社会的にも公にされた形で進められていきます。

このことが、メリット、デメリットの議論を越え、地域で一生懸命生きる障害者たちを支えている他の活動との連帯と、互いの励ましを通し、障害者の地域生活の充実へつながればと、切望いたします。そして、会員・賛助会員が、自分たちの活動の意義を自然に確認し、更なる発展へとつながられるようにもなればと思います。

* * *

さて、6月12日から17日まで、大倉山の「ギャラリーかれん」で開いた第4回写真展は、N.P.O.法人の初仕事となりました。内容はA4サイズの額装写真22点の他、A1サイズのカラーパネルに一日の生活の様子を紹介したものが8枚等を展示する他、たわわ増刊号(B5サイズ・40ページ)を発行・配布し、重度障害の当事者や、家族たちの発言、私たちの支援するグループホームの紹介を掲載し、情報の発信をする機会としました。

普段、重度障害者に会うこともない多くの方たちをはじめ、福祉の仕事に関わっている方やその家族、友人の方たちまで、熱心に見ていただけて、まずは目的を達成できたと思います。

* * *

今、自立支援法により障害者の就労支援が変革のひとつとして取り上げられていますが、生きるための一つ一つの行動にも、支援が必要な重度障害の人たちの存在を知ってほしい。そして必要な支援を得て、誰もが自分らしい自立した生活を目指せるように... と思います。



高めあえる人との交流

花陽の会会長 三上文子

ある医療者の「自分の生命エネルギーを高めるような(志の高い)ライフスタイルを心がければ自然に人を思いやるようになる」「エネルギーのあふれ出る人と付き合うのがよい」という言葉に出会いました。

それは、私をもっとも尊敬し、約50年携わる芸の終生の目標とさせて頂いている恩師から若い頃に受けた教えの一つ(一常に音楽的・人間的に高めあえる人と交流するように)でもありました。

毎月のたわわを拝読し、皆様が「今」に安住せず、先を見すえて行動されるお姿がまさに「志の高い」方々であると感服致します。益々心豊かに明るくお過ごしになりますように。

親の思い

福田定子

20年ほど前に、日吉のマンションに出掛けたのがきっかけで、よつば(当時は地域作業所よつばホーム)に関わることになり、今日があります。

その時の先客が、勢津子さんと健市さんでした。長い大変な時期もあり「バザー」も時には月に2回もあったりして、親の努力も限界かなと思うこともありましたが、その昔があって今日があるのでしょう。

今は、現在の親や子供の安定した生活が「続き」ますようにと願っております。

私はよつばにお世話になって「良かった」と思っております。

先日、障害者への差別の話を聴きましたが、部外者は障害者の親は不幸せと思っている人が多いと思います。ですが、私は次郎と暮らせて本当に良かったと思っております。

外出時に近所で立ち話などしていると、この人は、なぜのんきそーに暮らしているのかな〜という顔をされることもありますよ。

長い人生、いろいろありますね。私は後10年ほどは頑張りたいと思っております。

ご入会、ご継続 ありがとうございます [敬称略]

《会員》

大谷 友子 鈴木 仁市 鈴江 美博 井上 禮子

《賛助会員》

清宮 一恵 野口 儀子 下野 正夫 下野 芳子 岩崎ふさ子

岩崎 信行	下野 一夫	下野 節子	萬治 進	萬治 敏子
楠戸 滋夫	楠戸 エミ	白川田倫代	佐藤美和子	佐藤 充子
寺沢 慎	白鳥千代子	前田美津江	太田 征子	坂上富美子
坂本 茂子	寺岡百合子	鎌田みね子	藤井みさ子	平等 志成

(18年6月29現在)

※ 振込み受け取りの処理の関係上、ご掲載が遅くなる場合があります。御了承下さい。



めがねの声

ニュースで シンドラー社製エレベーターの事故の話をみました。その後で 他の会社のエレベーターも 故障をしていたことが 次々とでてきました。

私は とても恐いなと思ってみました。

* * *

エレベーターで 思い出すことがあります。

ずっと前は、エレベーターのボタンも 高いところにあることが多く、今は 障害者用にボタンが下にもついています。昔は 私などはちょっと手が届きませんでした。

それで 七沢のリハビリテーションセンターにいるとき、先生が 棒のさきプラスチックの粘土のようなかたまりをつけてくださって、それでボタンを押して 一人でエレベーターに乗って、館内や 教室を移動していました。始めは 恐かったけれど、だんだん慣れて ちょっと上手になりました。私は その棒を細長い缶にさして、いつも車イスの横にぶら下げて持っていたので みんなに「魔法の サリーちゃん！」と呼ばれていました。その頃のことを思い出してちょっと 懐かしかったです。

でもこのニュースを聞いて とても 恐くなりました。

もし 今 エレベーターの中に 取り残されたらと思うと ぞっとしました。とても恐いです。

エレベーターのことは 障害者たちも長いこと言い続けて、駅などでも 少しずつ増えて便利になりましたが、こんな落とし穴が隠されていたなんて！！

エレベーターが故障だと、声も出ず 手も 足も不自由な人はお手上げです。

外国の牛肉などは 恐れれば食べずにいればよいけれど、車イスの人は 階段に行くわけには いかないのです。

閉じ込められなくなければ 歩ける人は階段を歩けばよいけれど 私たちは それが出来ませんから.....

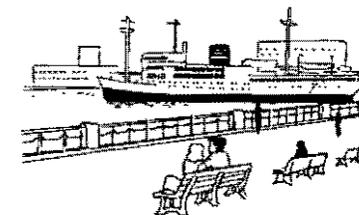
大原 友子

今月のよつばホーム

よつばホーム

6月のある土曜日、高島さんと花岡さん、高島さんのお姉さん、ヘルパーさんと職員でみなとみらい線に揺られて人形の家に行ってきました。だいぶ前に1回行ったのですが、新たにリニューアルされたということで、みんなで楽しみにしていました。到着してグルリと簡単に見たあと、劇場にて人形劇が始まるとのことで移動しました。横浜の開港から現在までの歴史を、かわいい人形たちが説明してくれました。それから再び館内へ、世界のさまざまな衣装を身にまとった人形をみて、世界の文化を感じてきました。

昼食は隣のメルパルク内のレストランにて、パスタや肉料理など食べてきました。高島さんは帰り際に福田さん、藤田さんへのお土産のお菓子を買ったかっただようのですが、適当なものがなく少々不満気な様子もありましたが、何はともあれ無事に帰宅しました。外出で東横線・みなとみらい線によく乗りますが、駅員さんがいつも親切に対応してくださるので、こちらにも気持ちよく乗り降りできて安心しています。



第2よつばホーム

「おはようございま〜す」今回は、入居者がデイサービスに行くまでの朝の様子をお話したいと思います。

まず、7時前後に阿部さんと大原さんが起床します。時々、阿部さんは“もう起きてるよー”と7時より前に自分からドアを開けてスタッフを呼ぶこともあります。ガタガタとドアを開ける音にスタッフは驚いたりします。着替えを済ませリビングに来るとニコニコ顔(´▽`)目覚めが良かったようですね。

大原さんも着替えてリビングに来ます。毎日つい気になってしまう検温をし、それからスタッフと朝のニュースを見ながらゆっくりと朝食を食べ始めます。

7時30分前後には山田さんと富岡さんが起床します。スタッフが居室に行くときすでに起きていたり、眠そうな顔をしていることもあります。着替えを済ませ、先に起きていた2人に「おはよう〜」と挨拶をしてから朝食です。朝食は毎朝スタッフが作り、ご飯とお味噌汁のある和食のメニューになっています。

朝食を終えた人から、出発までは食休みをします。3チャンネルのテレビを見ながら歯磨きをする人やダンスのお姉さんが気に入って和室で横になりながら見ている人、知っている童謡などが流れてきてそれを歌ったり、聞いていたり・・・

9時すぎに送迎車があるので、天気がいい日は玄関先で花を見ながら待ったりもします。「今日も元気にいってらっしゃい〜」こうして入居者の一日が始まります。